

令和元年度 第1回岡崎市国際化推進委員会議事録

- 1 日時
令和元年7月19日（金） 午後2時～午後3時30分
- 2 場所
市役所西庁舎501会議室
- 3 出席委員（敬称略）
委員長 安藤 充
副委員長 川崎 直子
委員 小久井 正秋、濱田 順子、伊東 浄江、東松 陽一、平岩 義邦、
鈴木 純子
- 4 欠席委員
井上 登永、山田 珠樹
- 5 傍聴人
1人
- 6 事務局
社会文化部長 河内 佳子
国際課 課長 太田 義男、副課長 五十嵐 千草、主任主査 竹谷 昌祐、
主事 安藤 美咲、主事 鈴井 美菜子
- 7 議題
 - 1 次期多文化共生推進基本指針について
 - 2 岡崎市の国際化の現状について
- 8 議事要旨
司会の国際課長が開会を宣言。社会文化部長の挨拶に続き、岡崎市附属機関等の会議の公開に関する要領に従い本会議の公開を説明。本委員会設置要綱第6条第2項の規定に基づき本会議が有効に成立している旨を報告。議長を務める安藤委員長により議題の審議が進められた。

- 議題 1 次期多文化共生推進基本指針について
2 岡崎市の国際化の現状について

事務局 : 次期多文化共生推進基本指針について及び岡崎市の国際化の現状について説明。
委員長 : 委員の皆様から御意見・御質問はありますか。

<次期多文化共生推進基本指針、岡崎市の国際化の現状について>

G委員 : 国際化推進基礎調査についてですが、どのような形で調査を行いますか。

事務局 : 無作為抽出のアンケート調査です。

G委員 : アンケート調査に加えて、特定のコミュニティや外国人をたくさん雇用している企業に聞き取りを行うことは考えていますか。

事務局 : 現時点では、その予定はないですが、検討したいと思います。

G委員 : 近年岡崎市は技能実習生が増えているので、彼らを受け入れている企業に個別に意見を聞くことで、見えない課題が分かってくるのではないかと思います。

委員長 : 出前講座や防災訓練の内容で羽根北新町二区という町内会の名前が挙がっていましたが、この町内会はどのような町内会ですか。

事務局 : この町内会は城南学区という多文化共生に力を入れている学区にあり、総代さんが中心となって積極的に多文化共生推進のためのイベントをしている町内会です。

H委員 : 新人総代研修会で町内会のための翻訳支援サービスについて紹介したとありますが、国際課では町内会の文書をすべて各言語に翻訳しているのですか。

事務局 : すべての文書ではなく、総代さんから依頼があった時に、その依頼された言語に翻訳をします。

H委員 : 良いサービスだと思うので、積極的に周知すべきだと思います。

I委員 : プレクラスについてですが、クラス内では、日本語を中心に教えているのか数学、社会など科目を教えているのかどちらでしょうか。

事務局 : 1週間のうちの4日間は南中学校で日本語の初期指導や日本の学校生活についての内容を教えており、残りの1日は在籍する学校で各教科の学習をします。

I委員 : 年度途中で来日した外国人児童生徒はおそらく日本語初心者だと思います。また、中学生の学習内容はかなり難しい内容です。日本語学習と普通の教科の学習との両立が難しいように思います。

H委員 : 外国人児童生徒等支援ボランティアはどのように活動していますか。

事務局 : この制度は始めたばかりなので、まだ実際に活動していただけていないですが、できればプレクラスや日本語教室で活動していただければと思っております。

ます。

A委員：このボランティア登録制度は、土日はやらないのですか。また、条件はありますか。

事務局：土日に要請があれば土日も実施します。条件は特にありません。

委員長：大学生のボランティアを活用すると良いと思います。

D委員：このボランティアはボランティア活動保険に加入するのですか。

事務局：自治振興課が行っている保険を活用します。

G委員：コミュニティ通訳員制度について教えてください。

事務局：コミュニティ通訳員は、地域における多文化共生を推進するため、町総代又は公営住宅の自治会長から推薦を受け、市が委嘱し、外国人市民が多く住む地区に配置しています。町内会のチラシの翻訳や、トラブル発生時の通訳等を行っていただいています。

A委員：プレクラスについてですが、生徒はどのように通うのですか。

事務局：今までは親の送り迎えやバス等でしたが、最近、自転車通学も可となったようです。

A委員：プレクラスは何か月通うのですか。

事務局：3ヶ月です。

委員長：コミュニティ通訳員増員についてですが、外国人市民数が増えている地域はどこですか。

事務局：岡崎の南部地域、特に六ッ美が多いです。

H委員：ベトナム人やインドネシア人がたくさんいますが、行政としてどのように対応していく予定ですか。ハラルの食事など、大企業に事前に対応策を教えてください。いただいたほうが良いと思います。

事務局：ベトナム語に関しては現時点では広域コミュニティ通訳員を活用しています。インドネシア語やハラルについては今後検討していく必要があると思います。

B委員：急激に外国人市民が増えていますが、家族で来日する方でそのうちの誰も日本語を理解することができない方が多いと思います。

事務局：子どもは大人より比較的早く日本語を覚えることができます。大人は子どもほど日本語を上手に話すことができないと思います。その場合、親と子どもは何語で会話をするべきなのかということで、母国語講座の開催を検討しています。

F委員：日本生まれの外国人の親の元で育った子どもは、言語の基礎がしっかりとできていないので、言語力や思考力がなかなかついていかないという問題があります。考えるためにも母語を持つということが大切です。

F委員：技能実習の外国人市民が増えている地域がありますが、彼らを受け入れている会社の把握はしていますか。

事務局：会社の方が一緒に住民登録にいらっしゃればどこの会社の方なのか分かりま

すが、通常は、個人情報保護のために把握できません。

委員長：高校生呼和浩特市派遣やウッデバラ市派遣の高校生の選考は済んでいますか。随行職員は国際課職員ですか。

事務局：選考は済んでいます。国際課職員が随行します。

D委員：国際化推進基礎調査についてですが、アンケート調査のスケジュールはどのようなになっていますか。

事務局：詳しいスケジュールは今後決まりますが、12月末までには、集計結果、報告書が業者から提出される予定です。

H委員：アンケート調査の結果は公表されますか。

事務局：結果はホームページ等で公表する予定です。

<まとめ>

委員長：国際化推進基礎調査については外国人受け入れ企業に聞き取りを行うのも効果的という意見がありました。プレクラスについては教員の増員ができると良いと思います。また、小学校でも開催できると良いと思います。ありがとうございました。

事務局：貴重なご意見ありがとうございました。これで令和元年度第1回国際化推進委員会を終了します。